

主な内容

一般質問議員と質問項目	1
一般質問から	2・3
主な質疑	4
12月定例会 議案等審議結果一覧	5
委員会研修	5・6



那須烏山市 Nasukarasuyama City

議会だより

発行

那須烏山市議会

編集

議会広報委員会

事務局

☎0287-88-7114



今日から大人の仲間入り！(1月11日 成人式 風月カントリー倶楽部)

12月定例会が12月3日(火)に招集され、12月11日(水)までの9日間の会期で行われました。提出された議案等の審議の結果は5ページに掲載しております。

*なお、議決された議案等の内容など、詳しくは「広報那須烏山第100号」をご覧ください。

一般質問議員と質問項目(質問順)



高田 悦男 議員

- 1 市長の政治姿勢について
- 2 社会保障・税番号制度(マイナンバー)について
- 3 河川愛護会による河川の草刈について
- 4 野焼きについて
- 5 林業の活性化について



佐藤 昇市 議員

- 1 市政運営について
- 2 有害駆除対策について
- 3 防災について
- 4 スポーツ振興について
- 5 環境整備について



久保居 光一郎 議員

- 1 3期目を担う市長の抱負および決意と主要政策について
- 2 南那須地区の学校統合問題の進捗状況と今後の展開について
- 3 知恵と協働によるまちづくりプランについて



中山 五男 議員

- 1 公金の滞納総額18億円の解消策について
- 2 水道漏水損失金年間2億9千万円の対策について
- 3 本市の農業農村の将来像について
- 4 事業仕分けの継続、取組について
- 5 本市職員に対する指揮監督の在り方について



渡辺 健寿 議員

- 1 コメ政策の見直し対応及び遊休農地対策について
- 2 花公園化事業の取り組みについて
- 3 ねりんピック栃木2014について
- 4 イベントの誘客促進と真夏の暑さ対策について



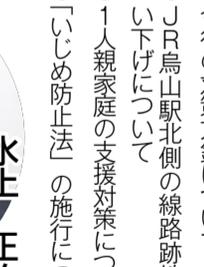
川俣 純子 議員

- 1 烏山女子高跡地の利用に、何か案があるのか
- 2 自転車の運行について
- 3 那須南病院について
- 4 烏山駅、大金駅について
- 5 那須烏山市の未来像はどの様に描かれているのか



平塚 英教 議員

- 1 学校給食センター建設工事について
- 2 国有林の有効活用について
- 3 県営産業廃棄物馬頭処分場建設問題について
- 4 こぶしの湯を含む自然休養村施設の今後の対策方針について
- 5 JRR烏山駅北側の線路跡地部分の払い下げについて
- 6 1人親家庭の支援対策について
- 7 「いじめ防止法」の施行について



水上 正治 議員

- 1 市長の市政運営について
- 2 南那須地区の学校再編について
- 3 太陽光発電事業の推進について



田島 信一 議員

- 1 市庁舎建設について
- 2 公共施設の解体整理について
- 3 小中学生の登下校時の安全対策について
- 4 農業の6次産業について



平山 進 議員

- 1 投票率の向上、投票入場券の裏に期日前宣誓書を印刷配布しては
- 2 胃がん発症者の大半者がピロリ菌感染者、除菌で胃がんの予防を
- 3 中学校統合に伴い自転車登校の安全、安心の確保は出来ているのか



渋井 由放 議員

- 1 蓄電池駆動列車の導入と観光振興について
- 2 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の対応について
- 3 学校給食の運営について
- 4 学校給食センターの工事請負契約について
- 5 地球温暖化対策の取り組みについて

※赤太字になっている項目は、本紙2〜3ページに質問と答弁の内容が掲載されていますので、そちらもご覧ください。

平成25年12月定例会 一般質問から

※質問・答弁の内容は要約してあります。
会議録は市立図書館及び市ホームページで
閲覧できます。

野焼きについて

高田悦男議員

(問) 今春は個人の野焼きなどから延焼して多くの山火事が発生したところであるが主な原因と発生件数について伺う。3月9日には日中、南那須地区において3回、3月17日には烏山地区にて2回の山林原野火災があつたと記憶する。

芝焼きによる濃集の影響などを考え2年間見送られてきたが病虫害の温床にもなるので平成26年は一斉芝焼きを実施すべきと考えるが市の考え方を聞きたい。
(答) 今年の1月から3月までの火災発生件数は17件、うち個人の野焼きから延焼したと思われる火災が8件でどちらも例年に比較して激増。例年実施していた一斉芝焼きを放射性物質の飛散抑制のために自粛をしたことで残された枯れ草が乾燥と強風により火災につながつたと考える。また



いのしし捕獲用のくくり罠

個人の野焼きから延焼するケースも激増、自粛により個人が散発的に野焼きをした影響も指摘されている。原発事故以来、一斉芝焼きは県の自粛通知を受け中止していたが、市内のモニタリングポスト測定結果は平常数値で安定し、農産物のモニタリング検査も放射性物質は検出されない。最終的に県、管理機関と調整の上実施の方向で検討する。

有害駆除対策について

佐藤昇市議員

(問) 本市でもイノシシによる農作物の被害が深刻になつてきている。このままの状況が続けば、頭数は増大してしまう。わな捕獲だけでは限界がある。猟友会との連携を密にし、年2回ぐらゐの有害駆除をと思うが、市長の考えを伺う。

那須烏山市被害防止計画を改正の上、有害鳥獣の捕獲を猟友会に委託し被害軽減に努めている。その他、電気柵の購入補助、狩猟免許取得補助などを導入、また一頭当たり最大7千円の捕

獲報償金を交付するなど被害防止に努めている。
(問) 2020年東京オリンピック、パラリンピック、その後の栃木国体等によつて市の活性化を図るのか。市全体のスポーツ施設のあり方も含めて考えを伺う。
(答) これらの一大スポーツイベントの開催は7年から9年後のため、中心となる選手層は現在の小中学生と思われる。子供達の多様なスポーツ活動が効果的、効率的に行われるための取り組みを推進する。また、体育施設整備検討委員会を立ち上げ、スポーツ教育の振興と体育館等の整備を検討していく。

3期目を担う市長の抱負および決意と主要政策について

久保居光一郎議員

(問) 少子高齢化問題を始め、滞納問題を抱えた税収・財政問題、その他商工・観光業等の疲弊及び農業と後継者問題等々、本市には山積しており、これらの問題は誰もが認識しているところである。

その観点から市長がこれからの4年間で必ずや政治生命を賭けても成し得たいとお考えの最重要政策課題は何か、また市長が言われるまじりと光るまちづくりとは何かを伺う。
(答) 3期目の4年間で成し遂げたい主要政策については各委員会の中で検討中であり、計画の熟度に応じ

て方向性を定めたい。また当面する課題としては地域がこのように疲弊する中で活性化対策が必要と感じている。
(問) 南那須地区の学校統合問題について、答申以前に、関係学校者及び地域住民に対して市の方針説明がなかつたこと。また学校再編委員会の委員に該当する小学校PTA関係者がいないことなどが問題として挙げられる。答申に基づき、これまで5回の説明会・意見交換会を開催したとのことだが、統合時期を予定通りとするのか、1年先送りするかを含め、市長が速やかに決断されてはと思うが如何か。
(答) いろいろな意見を集約している。その中で出来るだけ早い時期に決断したいと考えている。

本市の農業農村の将来像について

中山五男議員

(問) 政府はコメの生産調整制度を廃止して、大規模経営農家の育成を目指している。

本市内の商店街は大型店の出店によりシャッター通りになり化してしまった。これと同様に、今回のコメ政策の大転換により、荒れ果てた農地で埋めつくされてしまふことになるのではないかと危惧している。本市農業は生き残れるのか。市の具体的な方策を伺いたい。
(答) 日本農業の再生には、政府主導による積極的な支



ブランド化が期待される中山かぼちゃ

援が必要である。それに加え県や市、農業団体、そして農家自身が努力して対策を講ずる必要がある。
今後は、大規模化だけでなく意欲ある農家や営農集団と連携し、農林水産物のブランド化や独自産業化を進めるなど、いろいろな観点から本市農業の活性化に取り組みたい。

漏水原因に給配水管の老朽化が考えられる

中山五男議員

(問) 漏水原因に給配水管の老朽化が考えられる。そのため、漏水が集中している旧烏山市街地区を重点的に調査修理を行い、今後5年間で改善したい。

今後5年間で改善したい。
(問) 米政策の大幅な転換により市内農家が混乱しないような市の対応、及び遊休農地、野生鳥獣対策について伺う。
(答) 農政の大転換といわ

れる減反廃止問題は本市の農業に大きな影響を及ぼす。農地の集約、コスト削減は必要だが大規模化だけでは対応困難で、すぐれた農産物のブランド化、6次産業化の支援などを行い競争力の高い農業の確立を図る。なお農業再生協議会は継続強化する。耕作放棄地の増加により人里との緩衝帯の機能をなくし鳥獣による被害が増加している。鳥獣の本来のすみかである山林と人里の緩衝帯としての平地林や農地の適正な管理について関係機関と連携し進めたい。

花公園化事業について

川俣純子議員

(問) 花公園化事業について本年度の反省と26年度の具体的な計画、10月予定の俳句吟行会場となる滝周辺及び春の蓄電池駆動電車の運行との関連について伺う。
(答) 25年度はJR小埜駅前ヒマワリ5鉢の花を咲かせた。ヒマワリ祭りを計画したが開花時期のズレにより残念な結果になった。26年度は新型電車の運行される春にはレンゲ畑、夏にはヒマワリを予定しているほか、吟行会場となる滝駅周辺の花公園も検討している。(尚その新型電車の運行開始は3月15日と決定)

川俣純子議員
(問) 4年後に築城600年になる烏山城を市のシンボルとして整備、再開発することはできないか。
(答) 農政の大転換といわ



烏山城跡の石垣(吹貫門付近)

(答) 市のシンボルとして活かしたいと考えている。烏山城築城600年記念イベントなどについて官民協働の組織を立ち上げ、検討を進めている。

(問) 市内の菓子店で中山かぼちゃを利用した市のシンボルになるようなオリジナルのお菓子の開発・販売はできないか。
(答) 傷ついたかぼちゃなどであれば安価に手に入る。商工会の菓子部会等と協議しながら、検討する。

烏山駅、大金駅の無人化に伴う市としての対応

川俣純子議員

(問) 烏山駅、大金駅の無人化に伴う市としての対応について伺う。
(答) 市としてJR烏山線の利用向上を図るとともに、JR東日本に大金駅への自動券売機設置等の要望を行っていく。なお駅前整備については外部を交えた検討委員会でも様々な調査研究を行っている。

川俣純子議員
(問) 烏山女子校の解体が決まったが体育館と講堂は残されたい。体育館は、烏高の生徒が利用する。講堂は、講堂を市の民芸館や資料館に利用することはできないか。
(答) 烏山女子校の解体が決まったが体育館と講堂は残されたい。体育館は、烏高の生徒が利用する。講堂は、講堂を市の民芸館や資料館に利用することはできないか。

(答) 歴史資料館等については内部の検討委員会にて検討している。山あげ会館や、烏山郷土資料館、国県の施設跡など、現在ある施設の中で整備を考えている。

学校給食センター建設工事について

平塚英教議員

(問) 学校給食センター建設工事問題のうち、仲裁裁定に委ねた案件以外について特別委員会の意見を付して報告したが、市当局はどのような対策や処置を講じているのか。また責任問題をいかに果たすのか伺いたい。

(答) 特別委員会では、浄化槽設置場所が西側に6メートル移動し沈下に至り、沈下したまま補強工事を行い完成した。標準仕様書に定める「地業の支持力を有するものであること」との規定からすれば当然、平板耐荷試験を行なうべきで市建設工事等請負業者指名停止等措置規程により指名停止を行わなければならないと報告しているが、指名停止等措置をすることは必ずしも妥当ではないと考えている。

県技術センターに指導依頼すべきでないという意見だが、これについては慎重に対処すべきものと考えている。

市側の責任ある管理体制を速やかに構築すべきであるとの指摘については、プロポーザル方式の選定方法についてのガイドライン、設計変更に係るガイドライン

を策定し26年度から適用することに対応したい。

市当局の責任問題はこれらの一連の問題が解決した後、全体的な総括をし議員各位の意見を伺う機会を設けたい。

南那須地区の学校再編について

水上正治議員

(問) 那須烏山市立学校再編検討委員会の答申が平成24年度中の3月21日教育委員会に出された。しかし、報告は市長には5月1日、議会には5月28日に行われた。この一連の対応が年度またぎになった理由は。

(答) 答申書の提出が年度末に近かったこと。答申書の取扱い等に諸手続きを経なければならなかったこと。今後のスケジュール等を検討しなければならなかったことから公表等が年度またぎになってしまった。

(問) 答申書の公表や説明会の実施以来、下江川地区学校再編を考える会などから出された要望や提言をどのように対応するつもりか。

(答) 考える会からは3項目の要望があった。その内容は真摯に受け止め現在までに4回の説明会と1回の意見交換会を開催した。今後はここで出された貴重な意見や要望を勘案しながら、生徒たちの教育の機会均等をはかることを念頭に方針を決定する。

(問) 下江川地区の生徒の中にはふた山も、み山も越

えて通う子どももいる。通学路の安全対策は。

(答) 中学生は原則6キロを超えた場合スクールバスを使えるが、弾力的な運用を検討中。また、自転車通学に危険な県道は最優先で安全施設の整備をしてもらえよう要望している。

市庁舎建設について

田島信一議員

(問) 耐震診断の結果、烏山庁舎・南那須庁舎双方の耐震不足が判明した。耐震工事が新築か決断すべき時が来ているが。

(答) 市庁舎は市民サービスの提供や行政サービスをを行うとともに、災害対策本部となるなど安全安心の面で極めて重要な施設である。2庁舎とも診断の結果、耐震に問題があると判明。今年度知恵と協働によるまちづくりプラン11プラス2に位置づけ、分庁方式の課題や市民サービス、行財政の効率化などを含め、整備について検討を重ねている。

庁舎はまちづくりの核となる施設であり、総合計画



耐震不足が懸念される市庁舎

を初めさまざまな計画に大きく影響する。財政状況今後の社会経済状況を見ず、費用対効果や規模、本市に合った整備が必要。そのような課題がある一方で、市民サービスの面や災害発生時の適切で迅速な対応など市民の安全安心の面では対策は待たなしと認識している。

職員による庁舎整備検討委員会では本年度中に方針をまとめる予定。しかし多額の費用を要し、住民感情にも配慮が必要であり、議会初め市民との合意形成が必要。来年度、学識経験者、関係機関の代表者も交え検討組織を立ち上げ、詳細な整備プログラムについて慎重に検討していく。

投票率の向上、投票入場券の裏に期日前宣誓書を印刷配布しては他

平山進議員

(問) 投票入場券の裏面に「期日前投票宣誓書」を記載することで、期日前投票時における職員の選挙事務の軽減化が図れ又、投票者も心理的不安がなくなると共に、投票率の向上につながると思われるが、市の考えを伺う。

(答) ホームページに「期日前投票宣誓書」を掲載し、便宜を図りながら、今後の導入については選挙管理委員会等で十分審議し、総合的に検討していきたい。

(問) 胃がん予防のピロリ菌検査を年1回の総合健康



期日前投票宣誓書(左)と投票入場券

診断を導入するべきと思うが、市の考えを伺う。

(答) 胃がんの予防は医療費の抑制にもつながり、他自治体の状況を見据えながら前向きに検討していきたいと考えている。

(問) 中学校統合に伴い、自転車通学路の整備や防犯灯の設置が必要と思われるが、市の考えを伺う。

(答) 通学路の整備においては、地元自治会と連携し、烏山土木事務所に粘り強く要望するなどして早期整備を目指す。道路照明、防犯灯設置においても、一日も早く進めていきたい。整備までの期間の安全対策については、学校関係者を含めた関係機関と協議し、ソフト、ハード両面からの対策を講じていきたい。

蓄電池駆動列車の導入と観光振興について

渋井由放議員

(問) 蓄電池駆動電車システムの導入は、烏山線利用向上と観光振興にとつて千載一遇のチャンスである。どのような施策を行なうかを伺う。

(答) 観光振興の絶好の機



蓄電池駆動電車「アキム」(提供JR東日本)

会であると期待を寄せている。一過性にとどまることなく継続的な施策を行い活性化に役立てていきたい。

(問) 大金駅前活性化に若者の定住型の住宅はどうか、小学校、中学校、幼稚園保育園、保健福祉センターが非常に近い。予算はPFIを検討してはどうか。

(答) 提言の趣旨はわかる。若者向けの市有住宅は検討させている。駅周辺の若者向け住宅は定住促進に効果がある。PFIの活用も検討はしていきたい。

(問) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が原案のまま成立し、平成28年度4月から施行される。政府は、平成25年度内に基本方針をとりまとめ1年以内にガイドラインが作成される。早い対応をするのが望ましいと思うが市長の考えを伺う。

(答) 国の基本方針等が策定された後、県内の動向に注視をしながら、必要事項を検討し、障害の有無にかかわらず、ともに支え合い、安心して暮らせるまちづくりを進めていく。

12月定例会において審査された請願・陳情

番号	件名	紹介議員	審査結果
陳情書第5号	烏山法務局証明センターの設置を求める陳情	なし	継続審査
陳情書第6号	新聞購読料への消費税軽減税率適用を求める陳情	なし	採択
陳情書第7号	「子宮頸がん検診対策の充実」を促進し、HPV予防ワクチン接種事業の一時中止を求める意見書」提出に関する陳情	なし	継続審査

12月定例会の本会議日程と傍聴者数

内 容		傍聴者数
12月 3日(火)	開会・上程・採決・付託	6人
12月 4日(水)	一般質問	23人
12月 5日(木)	一般質問	8人
12月 6日(金)	一般質問	4人
12月 11日(水)	上程・報告・採決・閉会	7人
計		48人

主な質疑

12月定例会での、議員質疑の中から主なものを要約して掲載しています。
会議録は市立図書館及び市ホームページで閲覧できます。

平成25年度補正予算について

議員 JR線沿線整備観光振興対策事業はどのような事業か、また沿線整備は市を挙げて取り組む事業であると思うが考えを伺う。

答弁 JR関係で蓄電池駆動電車の出発式等を開催する予定で、その際のセレモニーで山あげ祭を2回公演したい。また横断的な課の対応をするほか、観光協会、商工会や地元の方などを交え、総ぐるみで受け皿やおもてなしの心を養い、さらに拡大拡充していきたい。



現在の江川小学校

中で進めてもらいたいと思うが考えを伺う。

答弁 築20年以上の荒川中は平成26年度に大規模改修事業を行うが、そのための設計委託。下江川中施設整備費は、江川小又は下江川中の校舎を今後江川小として利用していくために必要となる改修に関する費用を比較検討するための積算業務の委託である。江川小の校舎にどちらを使うかは建物の構造面、財政面、立地条件、地域住民への配慮を勘案して検討を進める。

議員 鳥山小の学童保育が校内施設を利用して進めると聞いたが、いつ移す考えなのか。

答弁 学童保育は委員会を立ち上げ検討しており内容が固まってきたから校長とも連絡をとり進めたい。

議員 市営住宅の床基礎等改修工事はどのような事業を予定しているのか。

答弁 田野倉団地の入居者が退去するので床等を改修する。

議員 大木須ポケットパークの水道設備改修は何を実施するのか。

答弁 増圧ポンプ1台を改修する。

議員 職員給与はいくら減額になるのか。
答弁 一般会計から水道事業会計まで総額8408万円

の削減をしている。

議員 高額医療公費介護サービス費が増えているがいかなる内容か。

答弁 介護、医療保険の両方に自己負担がかかった場合、その世帯を対象に所得に応じ限度額を設け、それを超えた部分を支給する事業費である。

議員 ふるさと応援寄附金を差し支えない程度で説明を願う。寄附を受けるにあたって、どのような働きかけをしているのか。また、何に使ったのか知らせる必要があると思うがなされているのか。

答弁 法人が2社、個人2名の4件で205万円の寄附を受けている。使道は毎年市のホームページで公表している。PRは都市との交流イベントやふるさと鳥山会、神奈川南那須会の総会などでチラシを配布している。

議員 農林漁業災害対策支援費は梨の被害補助とのことであるが、補助基準はどのように算定して何人に補助したのか。

答弁 防霜ファンの設置補助で15人の方が対象。圃場の数は37圃場、総面積で1町4反1畝である。

議員 地域の元気臨時交付金が交付されている。なぜ多額の交付金があったのか。

答弁 平成24年度3月の国の大型補正で追加された公共事業費に伴う地方負担額について経済対策の円滑な実施を図る目的で今年度限り負担額の約8割が交付された。

議員 東日本大震災の基金から500万円計上してある使途は何か。

答弁 今回は太陽光発電設備の補助に500万円の補正を加える。

議員 災害援助資金貸付の償還期限は何年になっているのか。

答弁 償還期間は7年間で据え置き期間は6年間だが1名の繰上償還があり補正する。

議員 国民健康保険会計の財政調整基金が枯渇状況になる。残額と基金はどのぐらい積み立てが標準なのか。

答弁 年度末には約1億4600万円と予想される。国の指導では療養給付費の過去3年間の5%以上を積み立てることとなっており本市の場合約1億5千万円となる。



梨畑に設置された防霜ファン

ふれあい交流館の指定管理者の指定について

議員 大里いちご生産組合の代表者は、いちごの生産組合、荒南農業法人の代表で烏山沿線のヒマワリの事業も請け負っている。そんなに多くの仕事を抱えて運営ができるのか。また、1つの法人などに集中するのはいかがなものか。

答弁 確かに代表の方は複数の事業に関わっているが、他にスタッフもいるので対応できると思われる。ただ、受け手がいないのも事実で今後は後継者に引き継ぐのが理想だと考える。



ふれあい交流館の観光いちご園

工事請負契約に関する紛争の和解について等

議員 設計書、図面、現場などを熟覧の上入札をするようになったら、相手方は熟覧をしなくて入札したと言っている。相手方にも非はあるので脱漏部分を100%支払う義務はないと考える。仮契約する前にこれらを話すべきであったと考えるが、誰が判断を下したのか。また今後の入札で熟覧の必要はないのか。

答弁 判断は変更仮契約を結んで議会上程した学校教育課で行った。入札に臨むにあたっては、設計図書、設計図等を確認の上、実施することが本来である。

意見書提出

12月定例会において、「新聞購読料への消費税軽減税率適用を求める意見書」を関係行政庁へ提出することを決定しました。

11月臨時会

11月臨時会が11月20日(水)に招集され、提出された議案は全会一致で原案のとおり同意されました。その議案は次のとおりです。

・教育委員会委員の任命同意について

また、任期満了に伴い市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙が指名推薦により行われました。

行財政改革特別委員会



市長に報告書を渡す議長と特別委員会委員長

議会には、議案等を審査する権限(審査権)があり、各常任委員会において、決算や予算、市の行財政の運営や事務処理等が適切に行われているかを審査しています。

平成23年度決算の審査(平成24年9月議会)及び、平成25年度予算の審査(平成25年3月議会)では、各常任委員会より合計36項目の要望意見を市に対し提出しました。

行財政改革特別委員会(久保居光一郎委員長)では、これらに対して、各担当課がその後どのように対応したのかをA(成果があった)、B(一定の成果があった)、C(対応を見守る)、D(早急に対応すべき)の4段階に分けて評価し、昨年の12月11日に「予算・決算審査の中で出された要望・意見等(評価項目)追跡調査評価報告書」として市長に提出しました。

評価報告書の詳細については、ホームページに掲載しております。

経済建設常任委員会

研修報告

経済建設常任委員会は昨年の11月29日、午前中は昨年、降霜・低温被害に見舞われた農産物の中でも特に被害が甚大と思われた「梨栽培農家の被害現況について」の調査と、午後からは田舎暮らしと共生をテーマに地域おこしを図っている「笠間市クラインガルテン」の視察研修をおこないました。その概要についてご報告いたします。

◆梨栽培農家の被害現況調査について

本委員会は昨年5月にその被害状況の現地視察をおこないましたが、その後の支援策や現況についても把握すべきとの観点から、前回視察調査に伺った南那須地区の梨栽培農家で、被害状況等について調査を致しました。

その被害内容は豊水・幸水にあつては例年の60%程度であり、降霜・低温時に花を咲かせていたあきづき・につこりについては10%弱しか収穫出来ないとのことでした。調査後は、直ちに庁舎に戻り委員会を開き、



クラインガルテンで所長の説明を受ける議員

所管課の課長を交えてその他の農産物についての詳細な被害状況の説明を聞くとともに、今春の開花時期まで、注視して適切な対応を図りたいと委員会としての意見を付しました。

◆笠間市クラインガルテン視察研修について

笠間市郊外の丘陵地にある笠間市クラインガルテンの視察研修をおこないました。その概要は1区画が300平方メートルの土地に宿泊施設付き市民農園が50区画あり、37平方メートルの簡易宿泊施設と各100平方メートルの菜園が整備され、利用期間は1年単位で最長5年間で年間利用料は40万円。その全区画とも利用されていて、予約が絶えない状況でした。

この施設は笠間市の施設でJA茨城中央が指定管理者として管理・運営をおこない、施設内には農産物販売所・そば処・クラブハウスがあり、その売上金と区画使用料で管理・運営の全てを賄い市からの指定管理料は0円とのことでした。

利用者は、市外・県外の人が多く、利用者間および都市住民との交流も盛んで年間を通して様々なイベント・事業が展開されており、本市の農地活用や都市間交流についても参考になる有益な視察研修でありました。以上ご報告いたします。

委員長 久保居 光一郎

12月定例会 議案等審議結果一覧

○…賛成 ●…反対 退…退席 欠…欠席

Table with columns for '議案等' (Proposals), '審議結果' (Deliberation Results), and '議員別賛否一覧' (List of Member Support/Opposition). It lists 15 proposals and their outcomes, with a grid of symbols indicating support or opposition from 15 members.

●上記の他、栃木県後期高齢者医療広域連合議員の選挙が行われ、大谷市長が議員に選出されました。 ※掲載は上程順 ※議長(佐藤雄次郎議員)は表決に加わらない。

議会の動き

11月

- 5日 ○総務企画常任委員会視察研修(6日まで) 山形県米沢市他)
7日 ○議員全員協議会
15日 ○議会運営委員会 ○議員全員協議会
○文教福祉常任委員会
20日 ○第6回臨時会
○議員全員協議会
○烏山線利用向上対策特別委員会

12月

- 3日 ○議員全員協議会
○第7回定例会(11日まで)
○行財政改革特別委員会
5日 ○総務企画常任委員会
○文教福祉常任委員会
11日 ○議会運営委員会 ○議員全員協議会
○予算・決算・要望意見等評価報告書提出
○学校給食センター建設工事及び公共工事調査特別委員会
○議会広報委員会
○総務企画常任委員会視察研修(ぎずな運営センター)
19日 ○烏山線利用向上対策特別委員会視察研修(20日まで・岩手県久慈市他)
16日 ○議会広報委員会
○学校給食センター建設工事及び公共工事調査特別委員会
22日 ○議会広報委員会
○学校給食センター建設工事及び公共工事調査特別委員会
○経済建設常任委員会委員による市商工会建設業活性化委員会との意見交換会
28日 ○文教福祉常任委員会視察研修(小山市他)
29日 ○議員全員協議会

総務企画常任委員会

研修報告

本委員会は、11月5日から6日に山形県米沢市及び宮城県角田市を訪問して視察研修を行いました。

米沢市は、伊達氏、上杉氏の城下町として栄えた人口約8万9千人の市です。

同市は、行財政改革大綱集中プランを平成17年に策定し、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)に基づきPFI制度を導入し、老朽化した公営住宅の建替整備事業を実施しています。

事業内容は、既存の住宅敷地に事業者が設計、建設した後、市に所有権を移転し、その後20年間維持管理業務を行うBTO方式です。支払方法は、市への所有権移転時に、施設整備費の45%を支払い、残りの55%を20年間の割賦方式で支払うとの事です。

住宅は、5階建てで2棟(70戸)整備されており、一般住宅のほか高齢者住宅もあり、生活相談・安否確認・緊急時の対応などを行うサポート業務も実施されています。

角田市は、仙台市の南約40キロに位置する人口約3万人の農村地帯です。



角田市デマンド交通予約センター前にて

同市は、市営バスを運行していましたが、年々利用者が減少し続け、新たな交通システムを検討し、利用者への聞き取り調査などを実施して利用者のニーズに対応したデマンド型乗合タクシー「ラビットくん」へ転換を図りました。

事業内容は、市が商工会へ委託し、予約業務は商工会がシステムを導入して行い運行は、タクシー会社に委託されています。市内中心部を走るコースと市内その他の地域を結ぶコース(4エリア)を1日8便設定し、当日30分前の予約で利用出来ます。

那須烏山市でも、南那須地区で実証実験運行されていますが、今後は全市運行に向けて早急な対応が求められています。

委員長 平塚 英教

文教福祉常任委員会

研修報告

去る11月29日、文教福祉常任委員会を実施した市内視察研修について、委員会を代表して報告します。

最初に烏山小学校において「英語コミュニケーション科」の授業を視察しました。この「英語コミュニケーション科」とは「英語に親しみながらコミュニケーションの楽しさに気づき、外国や自国の文化に興味を

持てる」ことを目標とし、平成20年度にはじまった比較的新しい取り組みです。授業は、担任の先生と英語担当の先生とALTの3人のみごとな連携により、基本的には英語で進められますが、とどころ自然に日本語やジェスチャーを交え、ストレスなく英語に親しめる工夫がされています。楽しそうに手を挙げ、英語で元気に発言する子どもたちを見て、英語やコミュニケーションへの興味、関心の醸成に大いに効果があるものと感じました。

次に、向田ふれあいの里の視察を行いました。ふれあいの里は、向田小跡地に「高齢者の居場所」として市が整備し、地元の管理運営委員会により運営がされている施設です。運営委

員会の永野会長から、現状についての説明を受けましたが、大変なご苦労はあるものの概ね順調に運営されているとの印象を受けました。関係者のご努力に敬意を表します。

今後、さらなる高齢化を迎える当市にとって、このような施設はますます重要度が増してきます。施設整備のみならず、運営の受け皿となる人材の育成にも力を注ぐ必要があると、強く感じました。

今回の研修は「委員会での話題となった市の事業の現場を実際にいくつか見てみたい」とかねてよりの委員の意見を踏まえ実施したもので、市の事業を肌で感じるよい機会となりました。

副委員長 田島 信二



元気に手をあげる児童たち(烏小2年2組)

烏山線利用向上対策特別委員会

研修報告

本委員会は、12月19日から20日にかけて岩手県にありまます三陸海岸を縦貫する路線「北リアス線」に赴きローカル鉄道の観光活用と利用促進について視察研修を行いました。

北リアス線は、第三セクター方式の三陸鉄道株式会社が運営する路線です。近年は乗客数の減少に伴い経営状況は厳しいものであるとの事です。

先の東日本大震災に伴う津波で甚大な被害を受け、一部路線は早急な復旧をいたしました。未だに運行できない区間があり路線は分断されている状況でありました。

実際に乗車してみますと、アナウンスで各駅の名所旧跡の案内を行い、太平洋を望めるビューポイントでは数分間停車し車窓を眺められるような工夫もされています。休日には、お座敷列車などの企画列車の運行がされており、乗車率アップへの取り組みが随所に感じられました。

また、観光活用について久慈駅近くにある道の駅を訪問し観光物産協会の事務局長さんにお話を伺い意見交換を行いました。

委員長 小森 幸雄



北リアス線久慈駅にて

この久慈市は、NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地となった場所、一躍話題のスポットとなり観光客が増加し鉄道の乗客も増加したとの事です。この機会を受け官民あげての観光客受け入れ体制を整備し、今後も一時的なもので終わらせることなく新しい話題づくりをしていきたいとのことでした。

いよいよ、JR烏山線にも3月から蓄電池車両「アキユム」が運行となります。本市でもこのチャンスを利用して観光客を受け入れ体制を整備し、今後一時的なもので終わらせることなく新しい話題づくりをしていきたいとのことでした。

この原稿を作るにあたりインターネットを操作しているうちに「大滝集落の記録」なるものが画面から出てきたことには驚いた。赴任した次の年、上司の配慮もあって隣の飯坂温泉のある湯野担当区へ移動できたことは幸いであった。もう一度大滝集落を訪れたいと思っ

ている。

議長 佐藤 雄次郎 記

議会を傍聴してみませんか

議会を傍聴することは、市政を知っていただく最も良い方法です。詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。(☎028718817114)



3月定例議会は、3月4日(火)開会予定です。※正式な日程は、2月25日に開催される議会運営委員会で決定されます。

あとかぎ

「時流れ山間に残る廃校の廊下は静かに歩めとありぬ」この歌は昨年、歌会始に詠進したものである。

昭和39年、宮林署の山官時代、宇都宮から雪深き福島県飯坂町大滝担当区へ赴任した。当時長男が3才、二男はまだ妻の背にあつた。妻の母が付き添って来てくれたがあまりの山奥に帰郷する際は涙の別れになったことを鮮明に覚えている。冒頭の歌は、この大滝集落が廃村となり、その時訪れた大滝分校の想いを詠んだものである。現在当地区は近くを福島県から山形県米沢に至る万世大道路と言われた国道13号が走り、栗子トンネルの福島県側の入り口になっている。当時は山合ひにあつて30世帯程の農家の大半が国有林野事業に協力し林業を生業としていた。この原稿を作るにあたりインターネットを操作しているうちに「大滝集落の記録」なるものが画面から出てきたことには驚いた。赴任した次の年、上司の配慮もあって隣の飯坂温泉のある湯野担当区へ移動できたことは幸いであった。もう一度大滝集落を訪れたいと思っ